

## 1 市長としての思い

職員の皆さん、今日は。市長の明岳周作でございます。日々、公務に懸命に取り組んでいただいていることと思います。

桜爛漫、令和3年度、新年度の新たな仕事の始まりです。コロナ禍ということもあり、庁内ネットワークで私の思いを伝えさせていただきます。

さて、本日は、人事異動に伴う辞令や新入採用職員の皆さんに辞令を交付させていただきました。新入職員の方々からは、力強い宣誓もしていただきました。

皆さんも、すべての方が宣誓書に署名をし、自分が何をなすべきか、自分の役割は何かということを宣誓し、署名をし、仕事に従事したわけであります。思い出していただきたいと思います。

「初心忘るべからず」という言葉がありますけれども、江田島市役所の職員になれた喜び、市民のために、まちづくりに取り組めることに感謝することを経験年数を重ねたとしても、決して忘れてはいけなと、私は思います。

## 2 職員の使命

私たち、江田島市職員の使命は、江田島市の使命は、何かと問われれば、市民の福祉の向上にあります。福祉というのは幸せのことであります。私は昔から、福祉の向上とは、「市民の喜びを増やして悲しみを減ずること。」であり、そのことが我々、職員の使命だと思っております。

そして、江田島市職員として職務に向かう姿勢、スタンスは、決して、市民の要求目線、依存目線で仕事をするではありません。次の世代を含めた市民本位で、仕事をさせていただくということを申し上げたいと思います。

それは、何か施策を決定する際や事業を進める際には、何が江田島市、何が江田島市民にとって、最善かという価値判断をもって、仕事をさせていただくことだと思っております。

市長就任後、この考えを、皆さんに機会あるごとにお伝えしております。

今後とも、こうした考え方を全職員が共有できるよう、意識し、上司や同僚、また市民の皆様に対応していただきたい。

私の夢は、市民の皆さんから、職員皆さんの日頃の仕事を通じて「江田島市の宝は、沢山あるけれども江田島市の職員が宝だ。」と言ってもらえること、そのことが市長としての夢であるとお伝えしております。その言葉を市民の皆さんから言ってもらえたときには、きっと江田島市は、今よりもいいまちになっていると確信するからであります。

私の考え方を、職員の皆さんが共有して、仕事に取り組んでいただくことが、組織の強さ、江田島市のよりよいまちづくりに必ずつながっていくものと考えております。

このことを実現するためには、決して難しいことではないと私は思っております。お願いしたいことが三つあります。

一つは職員の皆さんが、日々江田島市の職員として働かせてもらうことに「感謝」すること、二つ目は市民の方が職場に来られた時に「笑顔の挨拶をしてもらうこと」、三つ目は市民の方に寄り添って、業務に取り組むこと、「感謝、笑顔の挨拶、寄り添うこと」であります。このことを続けることによって、仕事がきっと楽しくなると思います。

### 3 「心構え」

私は、尊敬する上司から16年前に、次の詩を渡されました。その時の仕事の状況や家庭環境などによって、この詩から受け止める気持、感動や喜びなど、気づかせてもらうことが違ってきます。私が、皆さんにこの詩を紹介したとしても、「あそうか」、「いい詩だ」、「自分自身をかえてみよう」等々、感じ方は様々だと思います。それでいいのです。いつかこの詩によって、自分自身が「どう生きていくべきか」それぞれが感じてもらえればと思い、紹介させていただきます。

「心構え チャールズ・スインドール 訳：菅原 浩志」

歳を重ねる毎に、「心構え」が如何に人生に重要かを実感してきました。

実は「心構え」は、事実より大切なのです。

「心構え」は、過去より、教育より、お金より、環境より、そして成功や失敗よりも重要です。

「心構え」は、人々が何を考え、何を言い、どう行動するかよりも、大切なのです。

「心構え」は、外見や、才能、技術よりも尊いのです。

「心構え」ひとつで、会社を、寺院を、家庭を、築くことも破壊する事も可能なのです。

そして、素晴らしいことに、私たちは毎日どのような「心構え」で過ごすかの選択肢があるのです。

過去を変えることはできません。

人々の言動を変えることもできません。

世の中には避けられない事が多々あります。

私たちに変える事ができるのはたったひとつ、それが「心構え」なのです。

人生で何が起きるかは、人生の10パーセントに過ぎません。

残りの90パーセントは、それにどう対応するかです。

全てはあなた次第なのです。

何故ならば、「心構え」はあなた自身だからです。

先月、3月24日広島県西部建設事務所へ「県事業要望」の活動に行った際、「一歩前へ その積極性があなたの人生を変える。」という標語に出会いました。私は、あらためて、その標語を作った方の思いやそれを掲示した西部建設事務所の方々のやる気をこの標語から感じたものです。思いを持つことの大切さ、「念ずれば花ひらく」の精神であります。

#### 4 江田島市の課題（市制施行17年目）

さて江田島市は、平成16年11月に4町が対等合併し、17年目を迎えております。江田島市の課題は、何度も申し上げておりますとおり、人口減少に如何に対応していくかであります。戦後初めての国勢調査、昭和22年63,560人をピークに73年間江田島市の人口は減り続けております。人口は活力の源とも言われております。令和2年10月時点の国勢調査の速報値による江田島市の人口は21,937人となっております。国立社会保障・人口問題研究所による将来人口によれば、今後も、人口は減少傾向のまま推移し、2025（令和7）年19,218人、2030（令和12）年16,854人、2040（令和22）年12,560人まで減少すると見込まれています。合併した際の有利な交付税措置も終了し、合併特例債という有利な起債制度も令和6年度には終了します。これからの4年間、市の経営状況は厳しさを増してきます。そうした中において、私達の子や孫、その先の将来を担う世代のため、持続可能で、明るい未来を描くことが可能な江田島市を築くという大変重要な期間となります。これから、更に厳しい財政運営となる令和7年度以降を見据え、中長期的な視点で財政計画と行財政改革を運営するため、令和3年2月「江田島市行財政経営計画」を策定いたしました。この計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画とし、歳入の確保や経常的経費の見直し等により10億円の財源を捻出し、新たなまちづくりに資することができるよう努力を重ねていきたいと考えております。また、令和3年3月「江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略」を策定、各部の各種施策を推進することで令和3年度から令和7年度までの5年間の累計で、560人の想定人口効果を得ることを目標としております。また、この「江田島市行財政経営計画」と「江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略」については、職員の皆さん全てが共有できるよう、今年度、4月以降、財政課、企画振興課を中心に勉強会を実施することとしております。

#### 5 江田島丸・「住む人も訪れる人もわくわくできる島えたじま」

私たちの仕事を航海に例えると私たちは、「江田島丸」のクルーズ・乗組員です。お客様は市民や観光客の皆様。私が船長で、皆さんは士官。それぞれの役割を担う同僚の船員と共に、それぞれの仕事をして、この江田島丸を安全に目的地まで運ぶ。この航海は、歴史という航海ですから、もちろん海図はありません。しかしながら私たちが責任を持って江田島丸を、江田島市を明るい未来に運んで行かねばなりません。人口減少の中にあっても、私の理念である「住む人も訪れる人もわくわくできる島えたじま」、具体には「江田島市には活気がある、市民が元気で夢があり、安全に安

心して暮らせるまち、子どもたちも夢や目標を持つことができるまち」、そういったまちを、職員の皆さんや市民の皆様と一緒に実現していきたいと決意しております。

そういう意味で市長である私の仕事は、現在おかれている歴史的局面を認識して、江田島市の方向や目標を定めるということ。それから、最適な組織を作り、最適な人員を配置することだと考えております。

当面、先ほど申し上げた二つの計画、「江田島市行財政経営計画」と「江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略」に基づき、各種施策、市政を推進してまいります。

いずれにしても、職員の皆さんにお願いしたいことは、市民の立場になって、考え、行動する。この行動の一步を踏み出す、前向きに市民の皆様の役に立とう、この熱い思いを持つことの重要性を、是非、共有していただきたいと思っております。

こうした、職員の皆さんの仕事を通じての取組の積み重ねが、必ずや、市民の皆様にご感動をいただけたらと思っております。そして、いいまちづくりが、できると思っております。

## 6 人事異動

この度の人事異動により、部署を換わられた職員の皆さんもたくさんおられるでしょう。新しい職場で戸惑うこともあるでしょう。人事異動により、喜ぶことができる職員は3割、不安や不満をもたれる方が7割程度というのが、私の42年間公務に携わってきた経験則であります。

しかしながら、人事異動は、自分自身が変われるチャンスでもあります。

心構えひとつで人生は変わっていきます。少しやる気が失せたかな、あるいは燃える思いが沸き起こってこないなという職員の皆さんは、気分一新、神様から与えられた職場だと思って、仕事に取り組んでいただきたい。

最後に、私はどうしても人を評価して人事をしないといけません。この人事というものが市長として仕事をする上で、一番神聖な権限であり、自分が正しく行使できるかが試されていると思っております。

そこで私が職員の皆さんの何を見ているかということ、心構えが8割、能力が2割であります。どんな能力があっても心構えができていないと駄目だということです。

つまり、好き嫌いでなく、人間としてどういう価値観を持っているかということでもあります。仕事上のトラブル、起きてしまったことや避けて通れないこと、人間関係など、これらをどう受け止めるか。悔やんでも全く状況は、変わりません。

やはり、これらをどういうスタンスで受け止めるか、そこには、自分自身の「心構え」が非常に大事であると思っております。

結びになります。「住む人も、訪れる人もワクワクできる島江田島」を目指して、私も皆さんの先頭に立って、頑張ってまいります。

共に江田島市役所で、まちづくりの仕事に取り組むことができることへの感謝と熱い思いを持って、頑張っていましましょう。よろしく申し上げます。以上です。

## 追 伸

3月21日・22日に江田島市で新型コロナウイルス感染者の方が2名、昨年4月発症以来、12名の方が感染となりました。心からお見舞いを申し上げます。

残念ながら、コロナ収束まで、これから、かなりの期間を要すると考えられます。

ワクチン接種も江田島市においても始まります。職員の皆さんの協力が重要となります。

新型コロナウイルス感染拡大に対応するための緊急事態宣言を政府が3月22日全面解除してから、再び、リバウンド（再拡大）の傾向が見られ、流行「第4波」への懸念が高まっております。

「私たち自身が油断せず、一丸となって賢い努力を続ければ、トンネルの向こうに光がさしてくるのではないのでしょうか（山中伸弥教授・京都大学IPS細胞研究所）」

この言葉のとおり、マスコミ等の国や県等の批判に追随するのではなく、私たち自身ができることを徹底する。生活リズムを整える、きちんと食事をとって、体力をつけ従来からのマスク着用、うがい、手洗い、3密の回避など、これからもあらためて、徹底していきましょう。

「あとからくる者のために」（坂村臣民：詩人）

あとからくる者のために  
苦勞をするのだ  
我慢をするのだ  
田を耕し種を用意しておくのだ

あとからくる者のために  
しんみんよお前は  
詩を書いておくのだ

あとからくる者のために  
山を川を海を きれいにしていくのだ

ああ あとからくる者のために  
みなそれぞれの力を傾けるのだ

あの可愛い者たちのために  
未来を受け継ぐ者たちのために  
みなそれぞれ自分でできる何かをしてゆくのだ

この詩も素適な詩です。仕事で行き詰ったとき、くじけそうになったとき、私は、この詩を読み返します。すると、不思議なことに元気をいただけます。